



THE BAJ NEWS

日本ボストン会 | Boston Association of Japan | 会報 : 55号

総会

日時: 11月26日(木)
午後6時会場、30分開演
場所: NEC三田ハウス芝クラブ
詳細: 10ページ参照
コロナ禍で芝クラブでの開催が出来ない場合はZoomでの開催となります。

今後のイベント

コロナ禍で開催が見通せませんが、紅葉狩りとハイキングの会では、秋の紅葉狩りと新年の七福神めぐりを計画しています。10ページをご覧ください。

ボストン日本祭り

4月にボストンコモンで予定されていたボストン日本祭りはコロナの為に中止となりましたが、代わりにバーチャルで12月5、6日に開催される見込みとなりました。詳細はまだ確定していませんが、前夜祭がボストン時間の12月5日午後8時から開かれます。概要は11ページをご覧ください。

日本ボストン会HP

<http://www.j-boston.org/>

日本ボストン会事務局

〒153-0064 東京都目黒区下目黒
4-17-6



ボストンの夕陽

会長退任に当たってのご挨拶

会長：近藤 宣之

皆さん、今年は大変な年ですね。100年ぶりのパンデミックである、新型コロナ禍で社会や個人生活は大混乱です。世界では既に3100万人が感染して100万人が亡くなっています。ボストン会の活動も3密を避けるために全くできませんでした。

しかし、一方では、そうした事態になったからこそ、今後の国際関係、社会の在り方、人々の働き方も見直す変化が起こっています。私たちボストン会の活動も見直していこうという新しい動きができています。

日本ボストン会は、1992年秋の設立ですので、28年間という海外の特定の地域と交流をする民間の自主的な団体としては、長い歴史があります。これまでもボストンからの里帰り訪問団を受け入れたり、ボストンでの交流会に参加してきました。最近では会員がグループでニューイングランド地方へ旅行をすることはなくなりましたが、現地での桜の祭りに寄付をするなどの親睦を深めて来ています。

新刊書紹介

山口静一編・著『フェノロサ手稿「日本絵画蒐集作品解説付総目録」復刻・翻刻・邦訳集成』
(Eureka Press社、2020年7月刊)



●日本の美術を世界に知らしめたことで知られるフェノロサ(1853-1908)は蒐集した多数の日本の画軸(掛物)の目録をノートに書き残していた。このノートは昭和初期に関係者によって日本に持ち帰られていた。本書は、その全体を影印で示したうえで翻刻し、翻訳し、さらに解説を加えたものである。蒐集にあたり狩野派や住吉派の最高権威者が鑑定した内容が書いてある。それにフェノロサが異を唱えている箇所もあって興味深い。このノートに出ている大半の画軸は現在ボストン美術館の所蔵になっている。同館のWebサイトで検索する方法が示されている。言うまでもなく著者の山口静一会員はフェノロサ研究の第一人者である。ボストン会は2007年に山口会員の案内で三井寺の法明院にあるフェノロサの墓に詣でたことがある。フェノロサは本書の上梓を待ち望んでいたことだろう。

元々は、ボストンにご縁があった方々が、帰国後に同窓会のような気持ちでボストン会に参加して、生活体験や思い出を共有する仲間と共に、日本でいろいろな行事やグループ活動に参加する場として、快適な団体でした。海外で生活してみて、日本のことを知らない自分に気づかされた方も多いと思います。私もそうした一人でした。そのため、伝統芸能を楽しみ、歴史を学ぶ旅に出かけ、ボストンに縁のある音楽家を招いた音楽会を企画し、さらに日本人の心にしみるお花見や紅葉狩りで交歓を深めてきました。

また会の運営は20名以上の幹事が年に3回の幹事会にほぼ全員が参加、ご夫婦での参加も多いのが特徴です。しかし設立後30年近く経てば、会員の高齢化が進み、活動も活性化が課題になり、今後の会の在り方を見直すことも私の会長就任後の大きな課題でした。

この1年、会の活性化と活動の充実を目指してきましたが、ご承知のように、新型コロナ禍のために、ほとんどすべての活動ができなくなり、幹事会は1月を最後に直接顔を合わすことが出来ず、オンラインで行わざるを得なくなりました。この原稿を書いている段階では総会も、従来のような形式で開催できるか未定です。

一方、会の在り方を論議する企画委員会では、藤盛前会長のご提言で、創立時からの会員よりだいぶ若い新しいメンバーが中心となって、ボストンに縁のある映画会を開催するなど、新しい行事も進めています。ボストンとの民間の交流団体は、かつては北海道、京都、名古屋にもありましたが、今日では全て解散してしまい、実質的に活動しているのは私たちだけになっています。

今後のボストン会の在り方については、やはり会長や幹事になる方が新しいアイデアでこうありたいというものを持つことが大切だと思います。本会の会長は、現会長が次々期会長を推薦するという慣行ですので、次期会長の土居



さんの後は、星槎大学の細田さんをお願い致しました。

土居次期会長が中心となって、細田さんや、少し若い世代の会員、現在ボストンで活躍している方にも参加していただき、新しい幹事会を構成して社会に広がりをもった活動を展開してはと期待しています。私たちオールド世代は、そうした活動を応援し、仲間との交流は引き続き大切にしていきたいと思います。これからも明るく楽しい会員の親睦と活動を通じて、社会へ向けての発信もできる活動を展開していきたいと思っています。

この1年間は新型コロナ禍のために目だった活動ができませんでしたが、幹事の皆さんのご協力や会員各位のご理解に支えられて無事会長職を務められました。誠に有難うございました。

ボストンと私

It All Started Here

土居 厚夫

私は現在オーストラリアのメルボルンで心臓胸部外科医として勤務しています。私が現ポジションに辿り着く最初のきっかけは子供の頃のボストンでの日々にあるでしょう。1986年8歳の時にボストン郊外のレキシントンに引っ越し、13歳までの5年と数ヶ月を過ごしました。父に海外の転勤が決まったと聞いたとき、それをウソだと疑い辞令を持ってくるまで信じなかったことを今でも覚えています。

当時はアルファベットも知らず同じ小学校には姉以外に日本人もいませんでしたが、子供特有の順応性の高さも幸いし、たくさんの人々の支えもありそれ程辛い思いもせずに馴染んでいったような気がします。言葉が分からず、授業に全く集中できず落ち着きがないと言われたりもしましたが… 英語が話せないについて行けない授業中は自分と同様の境遇の子供達とESL (English as a Second Language)のクラスに通い、さすが移民の国という印象でした。

元々運動が好きで多くのスポーツに挑戦できる環境を最大限に活かすことが出来ました。サッカー、野球、アイスホッケー、バスケットボール、テニス、スキーとシーズンごとに色々なチームに所属し、その練習や試合の送迎をしてくれた両親には感謝です。土曜日の日本人学校に遅刻または早退したことはほとんどなかったと思います。また4年生の頃からチェロを習い、学校ではオーケストラに参加しました。この様に多くのことにチャレンジできる環境がアメリカの最大の魅力だったと思います。



中学2年生の時に日本に帰国し、帰国子女の編入を少数ですが受け入れている学校に入学しました。当時はまだ帰国子女は比較的珍しく、結果的には同様の境遇の生徒がいることで馴染め易

かったです。自分としては完璧な日本語を話しているつもりだったのですが、どうやら帰国当初は外国人訛りだったそうです。この頃から一生スポーツに関われる仕事に就きたいという思いからスポーツ外科医を漠然と目指すようになり、英語という長所を生かし、高校および大学受験をどうにか乗り切り千葉大学医学部に入学しました。

医学部在学中に心臓外科医を志す様になり専修医としてのトレーニング中、せっかく英語も喋れるのだから海外留学をしてみようと思い、行き先を探していたところシンガポールの病院が受け入れてくれることになり2009年から海外勤務が始り、その後もう少し経験を積みたいと思い、2011年からオーストラリアに異動しました。こちらの仕事環境が気に入り、紆余曲折の後オーストラリアの専門医試験を受験し2018年からメルボルンでスタッフとして勤務しています。当院は移植センターでもあるので、心臓と肺の手術全般およびに移植を行っています。昨年末には仕事でカナダに行った際1日休みを取ってレキシントンに約20年ぶりに行きました。当時住んでいたあたりを周りたくさんの懐かしい記憶を思い出しました。またいつかのんびりと行ってみたいものです。

現在（8/16）メルボルンはオーストラリアの中ではCOVID-19の罹患者数が多く2度目のロックダウンとなっています。今回は緊急事態宣言の上の災害事態宣言が発令されステージ4ロックダウンと言い、仕事以外の外出は5km以内での食料品等の買い出しのみとなり夜間8時以降は外出禁止令が出ており街は閑散としています。専門領域のせいもあって仕事内容は今までとさほど変化はありませんが、病院自体の環境は大幅に変わっています。外来患者は新規紹介以外はほぼオンラインで診察、家からの電子カルテのアクセスが大幅に改善、元々55床あった集中治療室を大幅に拡大し新たに100床以上集中治療対応可能（幸い今の所あまり必要となっていないが）、会議やカンファレンスは全てオンライン対応等、今後COVID-19が落ち着いた後の診療体制にも大きく影響があるでしょう。オーストラリア政府による対応は比較的早く大胆だったと思いますが、今後は他国同様COVID-19と共存しながらいかに経済を立ち上げ生活を平常化していくのが課題です。そもそも今までとは平常の定義が大きく違ってくるでしょうが。

今はオーストラリアと日本の間の定期直行便はANAのシドニー・羽田便のみとなっております。また、病院としても海外学会等の参加も禁止しておりしばらくはこちらにとどまらざるを得ません。レキシントン時代の友人と今年再会する約束も延期となりましたが、こんな時代だからこそZoomで連絡取ってみようかな。



一般社団法人INCLUSIVE ACTION FOR ALL の設立と活動の報告

～コロナ禍におけるオンラインGlobal Conversationの意味～

北原 秀治

2020年2月、コロナ禍が始まろうとしていた時、日本ボストン会のプログラム委員である細田満和子、八代江津子、北原秀治が中心となって一般社団法人INCLUSIVE ACTION FOR ALL (IAFA)を立ち上げました ([https://](https://www.inclusiveactionforall.org/)

www.inclusiveactionforall.org/)。母体は、ボストンの子ども達が大切に読んできた絵本を、世界のニーズある子ども達に送るプロジェクトです。このIAFAの活動の一環として、8月に国連創設75周年を記念するUN75 Global Conversationという、高校生を対象とした3回シリーズの対話イベントをオンラインで開催いたしましたので、ご紹介したいと思います。

UN75 Global Conversationは国連加盟国すべての人々を巻き込み、それぞれの希望と不安を共有し、現在と将来のリスクや機会を評価し、全世界的な協力に向けた解決策を探っていくというものです。私達は、このようなコロナ禍だからこそ、平和、平等、環境等について、特に若い人たちの話し合いのプラットフォームを創ってほしいと思い、3回の対話シリーズを企画し、入念な準備を重ねていきました。

そして日本、アメリカ（ボストン）、イギリスの高校に通う16人の高校生が集まり、2020年8月1日（土）に、第1回目を開催しました。IAFAには、ケニアのスラム地区キベラ、コックスバザールのロヒンギャ難民キャンプ、パキスタンのカラチなどで、地域の諸問題に取り組んでいるIAFA海外フェローがいます。当日は、彼らの活動を高校生参加者に伝え、問題解決のためにどのように取り組んでいけるかとクリティカルに考えてもらう場づくりをしました。2回目は1週間後に設定し、前回の問題を発展させて自身の「身近にある問題について考える」ことをテーマに話し合いました。ケニア、パキスタン、バングラディッシュの3人の海外フェローのビデオメッセージを念頭に、貧困、教育、ジェンダー、環境とそれぞれの興味ある分野をグループで話し合いました。特にコロナ禍では、もちろん日本人も苦しいのですが、海外での格差、貧困、難民問題は置いていかれてしまいます。そうしたなかなか報道されない問題にしっかり目を向けて、課題を抽出しました。そして翌週の3回目は、それぞれが高校生としてできるアクションプランを3分間でスピーチしてもらい、次の行動につなげるための準備をしました。

UN75 Global Conversation

高校生のみならず！
国連創設75周年記念

UN75 Global Conversationに参加してみませんか？

一般社団法人IAFAは下記の日程でUN75 Global Conversationに登録したZOOM会議を開催します。これからの世界をつくる「高校生」をお待ちしています。

日 時
8/1(土)・8/8(土)・8/15(土) 各日20:00～21:30 (ZOOM会議)
※定員15名(基本的に3回参加可能な方)

UN75 Global Conversationとは？
2020年に国連は創設75周年を記念して、未来に関する世界的対話 (Global Conversation) を実施しています。IAFAは、UN75に登録した対話のプラットフォームを用意しました。世界の複合的な課題を解決するためには何ができるか。未来をつくるあなたのアイデアを話し合い、変化を起こしましょう！

Inclusive Action For All (IAFA) とは？
一般社団法人Inclusive Action For All (IAFA: インクルーシブ・アクション・フォー・オール) は、世界のさまざまな場所 (アメリカ、ケニア、バングラディッシュ、パキスタンなど) のフェローと共に、社会的問題に取り組む国際支援団体です。

UN75 Global Conversationでは下記のことなどについて話し合います

- Climate change and environmental issues (気候変動や環境について)
- Poverty and inequality (貧困や不平等について)
- New technologies and population changes (新しい技術や人口変化について)

興味のある方は7月11日までに下記にご連絡ください。応募要項をお知らせ致します。
inclusive.action.for.all@gmail.com
担当: IAFA事務局

UN75 Global Conversation
https://www.un75.org/ja/activities/international_observances/un75/
IAFA
<https://www.inclusiveactionforall.org/>

今回のUN75 Global Conversationでは、このようなコロナ禍でも、何かアクションを起こすために、3C（チャンス、コネクション、チャレンジ）が非常に大事だということを皆で共有しました。それは、知らない人や知らない情報と出会うチャンス、人と人とがつながる事（コネクション）、そして、課題解決のためにチャレンジする事です。コロナ禍でもオンラインにより、高校生たちは、日本各地、アメリカ、イギリスから集まってくれ、通常では出会えないようなネットワークを作ることができました。まさにボストンが繋いだ縁から行えた活動でした。

ボストン便り - 6 2020, Sep. 1st

八代 江津子

2020年が明け、Covid19に翻弄される日々を余儀なくされています。マサチューセッツ州では感染数が日々ほぼ300人という3月から7月、そして落ち着きを見せず徐々に感染者数を増やしている状況です。しかし医療従事者の対応なのか、重症者の数は減少しています。マサチューセッツは全州の中では優秀な数を保っています。他州の感染者数が多いことから他州への行き来は制限され、訪れた場合、二週間の自宅待機が定められています。現在（9月13日）は行き来出来る州が東海岸7州とコロラド州が加わり2週間の自宅待機の必要無く通常の生活が可能となっています。興味深いのは多くの死者を出したニューヨークもその州の一つです。すぐ隣のロードアイランド州には未だ感染数が多く往来が制限されています。

マサチューセッツ州では毎週州知事の記者会見が1時間ほどあり、「現状の説明」、「これからの予想」、「州としての対策」を話します。様々な情報が溢れる中、この記者会見は予測できない今後のライフラインとなっています。こういったコミュニケーション、透明度が州政府への信頼となっていくのだと感じる日々です。

このようなコロナ禍の中で、人種差別のムーブメントに火が付きました。「Black Lives Matter」というサインが家々に掲げられるようになり、それを盗む人との間で小さな争いがこのボストンでも見受けられるようになりました。黒人の命だけが大切というのはおかしいのではないか、全ての命が大切だと「All Lives Matter」が掲げられるようになると小さな日本人コミュニティーまでにも影響が及び分断をが“そこ”“ここ”に生まれ始めています。

「Black Lives Matter」を学ぶ機会が増えました。

JBBB(Japan Business Bureau of Boston)、ボストン日本女性の会でも「Black Lives Matter」を学ぶイベントが行われ、「コントラバーシャルと」言われることに直接アクセスし、学ぶ



機会が増えているのは喜ばしいことだと感じています。

この頃はアジア人に対しても「家にかえれ」「帰らないなら、死に到る事にもなるわよ」等の言葉が上品なご婦人から発せられるような場面もあるようです。私自身もこの頃は危険とまではいかずとも、嫌な空気を感じる事が多くなりました。

ニューヨークの地下鉄は20年前に戻ったような危うさが見られるという話を聞きます。日本人もアジア人です。どの国に所属しているかは問題ではありません。そうした中自分がアジア人であることを認識し差別とも対峙していかなければいけないと感じる日々です。

昨年、「京都ーボストン姉妹都市60周年ーボストン日本祭り」の開催終了とともに引退した会長職ですが先月より1、2年の期限つきでお引き受けする事になりました。皆様にはいつもご協賛いただきまして心より感謝しております。



本年はコロナ禍という状況に実際の祭りは中止、年末12月5、6日にバーチャルにて開催する運びとなりました。こちらにてご報告させていただきます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。また、11月にはアメリカで開催されている日本祭り主催者によるシンポジウムを開催する予定にしております。ますます日本文化を他文化の方々に知っていただく事で交流をスムーズにしていき、「理解」というキーワードで平和な日々を過ごす事ができる一端になれば

と活動しています。

本年は「北海道・マサチューセッツ姉妹州30周年」ということもあり、テーマは「Bring Us Together・北海道・マサチューセッツ姉妹州30周年」で開催することに致しました。

どのような考え方があろうと「集い」「分かち合える」今こそそのような場所が必要ではないでしょうか。

オンラインでの祭りとなります。是非ボストン会の皆様にもご参加いただけると幸甚です。

新島襄とボストン

三好 彰

新島襄(1843-1890)は江戸の安中藩邸で生まれた。幼名は七五三太(しめた)であった。蘭学を志して築地の軍艦操練所で航海学を学んだ。天体を観測して洋上の船の位置を求め、船の速度を測るなどをものにした。

ペリー艦隊の黒船がやってきて日本の洋学は蘭学から英学に軸足を移した。新島は1863年春から英語を学んだ。英語でも航海学を学んだ。中濱万次郎(ジョン万次郎)が英書の航海学書を

邦訳しているが新島はその一部を写し取っている。分からないことがあって万次郎に質問に行こうとしたときに会った友人に誘われて函館（当時は箱館）に行くことにした。

箱館に着いたのは1864年春である。この時点では海外に行くことはご法度であったが箱館奉行所が五稜郭へ移転するため休業中の1864年7月に箱館を秘かに経った。

中国近海に10か月間居た関係で喜望峰を經由してボストンに着いたのは1865年7月であった。

到着直後にワシントン街に現存するThe Old Corner Bookstoreでロビンソン・クルーソーの本を買った。

新島の意気に感じたボストンの富豪ハーディ氏が学資を出してくれることになり、10月末からアンドーバーのフィリップス・アカデミーで学んだ。

その直後に現地の新聞が新島を取り上げた。ボストンコモンに隣接したPark Street Churchの日曜の礼拝のときに紹介されて O God! if thou have got eyes, please look upon me. などとお祈りしたという。新島はキリスト教を学びたくて渡米したのだった。

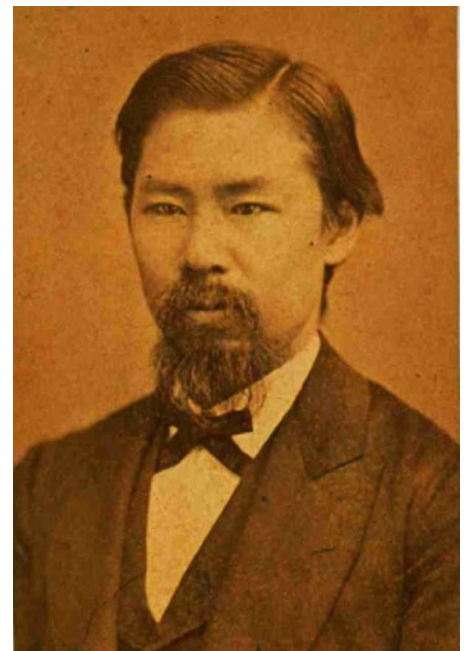
船上でJoeと呼ばれた。Josephの愛称である。アメリカでは恩人の名をミドルネームにして Joseph Hardy Neesimaと称した。香港で買った漢訳聖書から取ったらしく Josephを漢字で約瑟と書いている。新島襄と変えたのは帰国後である。

Amherst（新島はアーモストと書いている）大学に進み1872年（明治5年）に理学士になった。新島はアメリカで学士号を取得した最初の日本人である。写真は在学中の新島である（同志社大学のご好意に感謝）。

ついでアンドーバーの神学校に進んだ。在学中に在米弁務使（後代の公使）の森有礼の要請を受けて、岩倉具視を全権大使とする使節団の団員となり米欧諸国の教育事情を調査した。このとき旅券を取得した。

新島は大任を果たしたがドイツで体調を崩したのでしばらく静養した。回復してアンドーバーの神学校に復学した。

1874年10月にMount Vernon Church（当時はビーコンヒル）で按手礼を受け聖職者になった。その直後にヴァモント州ラットランドで開かれたアメリカン・ボードの総会で新島は日本に学校を作りたいと歴史に残る名演説をした。その直後に帰国したが、多くの人から献金があつて現在の同志社が誕生した。このように新島はボストン地区で学んだ最初の日本人である。



ワーキンググループ・活動報告

音楽の会

関 直彦・尚子

日本ボストン会には、かつてボストンで音楽の研鑽を積んだ後、活発に演奏活動が続けている優秀な演奏家たちが少なからずおられ、当会のホームコンサートでも腕前を披露してきました。またそうしたメンバーがリサイタル等を開催する際には、会員の皆さんにeメールで案内を送って、支援を続けてきました。

しかしご承知のように、そうした演奏家たちは今、新型コロナウイルスのために公の場での演奏活動ができなくなり、大変な苦難の道を経験しています。そして当会のホームコンサートの再開も見通しがつかない状況です。そうしたなか、当会の演奏家達は技量を落とさぬ目的もあり、ウェブ上での演奏会を企画し、実施しています。音楽の会として、そうした演奏家達を支援、激励すべく、ウェブ演奏会が開催されるたびに、会員に案内を送ってきました。外出を控えて余暇を持て余している会員に、そうした無償の演奏を楽しんで頂き、喜ばれ、好評を得ています。今後とも会員である演奏家のウェブ・リサイタルの案内を送りますので、ご支援ください。これまで下記の当会会員演奏家によるウェブ・コンサートを紹介しました：

木田陽子さん（ピアノ）

戸口純さん（ピアノ）

関野友記子さん（ピアノ）

生田恵子・敦子さん（ピアノ連弾）

笠原慶昌さん（ホルン）

ヒロ高田さん（ジャズピアノ）

ゴルフの会

近藤 宣之

昨年秋から山崎さんに代わって、ゴルフの会の幹事に復帰し、さっそく飯能グリーンカントリークラブで開催したのを最後に、今年は春・秋ともに懇親ゴルフを行うことが出来ませんでした。

プレーすることは可能であっても、その後の懇親会が3密になるので禁止のために、プレー後の風呂も使えず、会食、表彰式もできないとあっては、中止せざるを得ませんでした。

来年こそは、素晴らしい自然と広々としたフェアウェイに恵まれたコースで、皆さんとゴルフを楽しめることを期待しております。

総会

日時：11月26日(木)、会場：午後6時、開演：午後6時30分

会場：NEC三田ハウス芝クラブ（着席形式を予定）

会費：未定

コロナ禍により、会場が利用できるかまだ決まっておらず、利用できる場合も従来のビュッフェ形式ではなく着席となります。また、会場が利用出来ない場合はZoomを利用したリモートでの開催となります。

今後のイベント

ハイキングと紅葉狩りの会の今後の行事予定

コロナ禍のため、今後の行事予定が立て難い状況にありますが、11月頃に鎮静化することを期待して、紅葉狩りと七福神めぐりを提案しておきたいと思います。

紅葉狩り

今年は順番では遠出の紅葉狩りの年ですが、コロナ禍のため、東京近郊の神代植物園にて紅葉狩りを楽しみ、同時に深大寺の「白鳳のみほとけ」国宝釈迦如来像を拝観したいと思います。

- ・場所：深大寺と神代植物公園
- ・開催日時：令和2年11月中旬～12月上旬(検討中)
- ・食事会：深大寺そばを中心とする食事(検討中)

七福神めぐり

令和3年新春の七福神めぐりは、日本橋七福神めぐりで計画します。

- ・開催日時：令和3年正月(検討中)
- ・集合場所：人形町駅
- ・七福神：笠間稲荷神社(寿老神)、小網神社(福祿寿)、水天宮(弁財天)、末廣神社(毘沙門天)、梶森神社(恵比須神)、松島神社(大黒神)、茶ノ木神社(布袋尊)
- ・食事会：人形町界限(検討中)

BOSTON日本祭り第9回 バーチャル

”北海道ーマサチューセッツ姉妹州40周年ーBring Us Together”

概要：

12月5日、午後8時（BOSTON時間）から

前夜祭：日本BOSTON映画祭：上映映画3本 + Discussion（申込み者のみ）

プラットフォーム：ズーム、You Tubeを予定

12月6日、時間未定（4～5時間を予定）

各種文化イベント

プラットフォーム：ズーム、You Tubeを予定

まだ詳細が固まっておりません。固まり次第、日本ボストン会のホームページに掲載すると共に
のメーリングリストでご案内申し上げます。